

即チ上下振幅ノ頂點ニ於テハ死力ノ二倍トナリ底點ニ於テ全ク消滅ス此不平均ヲ補還センカ爲メ振動臺(イロ)ノ下部ニ檜材製ノ彈機ヲ裝置ス但シ第一圖第二圖中ニハ之ヲ畧ス

○參照第十(甲)

第一項 構造物雛形ヲ作り人爲ノ震動ヲ與ヘテ其強弱ヲ試驗スル事

耐震家屋構造法ヲ講究スルニハ其一階梯トシテ調査會報告第一號中調査事業概略ニ記載シタル如ク先ツ構造物ノ雛形ヲ作り人爲ノ震動ヲ與ヘテ其強弱ヲ試驗スルヲ必要ナリトス而シテ其構造物タルヤ煉化石アリ石造アリ木造アリ鐵材ヲ混用シタルアリ木石ヲ混用シタルアリ人造石ヲ混用シタルアリ又同一ノ材料ヲ使用スルモ簡單ナルアリ複雑ナルアリテ其種類頗ル多シ故ニ先ツ簡單ナルモノヨリ試驗ヲ始メ順ヲ追フテ漸々複雑ノモノニ及ボサントスル方針ヲ取レリ
其第一回ニ試驗セントスルモノハ神明鳥居棟門ヲ始メトシ九尺貳間ノ家屋四種ニシテ鳥居及門ハ現形ノ五分ノ一雛形ヲ作り家屋四種ハ現形ノ貳分ノ一ノ雛形ヲ作り以テ人爲ノ震動ヲ與ヘ其強弱ヲ試驗セントス其同面積ノ家屋四種アルハ主トシテ比較的強弱ノ程度ヲ知ラントスルノ目的ニ外ナラス

(文中現形ノ五分一又ハ貳分一雛形トアルハ何レモ寸法上ノ稱ニシテ例之ヘハ四寸角長貳間ノ柱トシテ貳寸角長一間ノモノヲ用フルハ二分一雛形ナリ故ニ全体ノ大サニ於テハ八分一ナリトス)

第一號圖面 神明鳥居 辰野委員提出

第二號圖面 棟門 辰野委員提出

第三號圖面 九尺二間ノ純粹ナル日本家屋 會禰委員提出

第四號圖面 九尺二間ノ日本家屋改良案 辰野委員提出

第五號圖面 九尺二間洋風家屋 片山委員提出

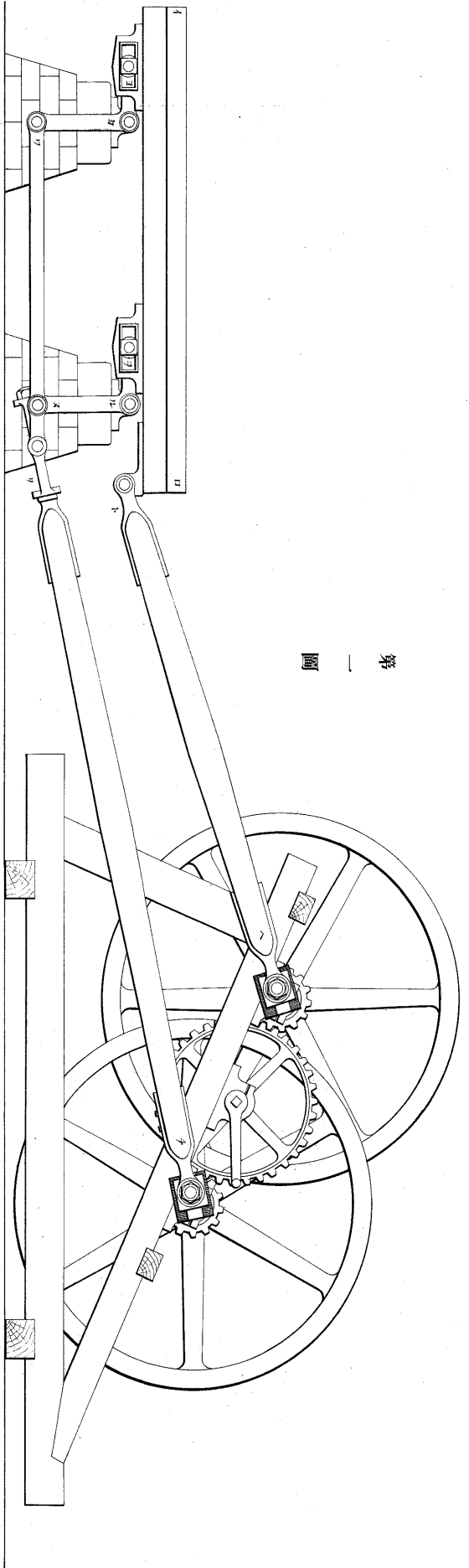
九尺二間ノ洋風家屋改良案 中村委員提出

右ノ中中村委員提出ノ洋風家屋改良案ハ目下製圖中ニシテ其他ハ既ニ製圖ヲ了リ仕様ノ起草雛形製作ノ準備中ナリトス

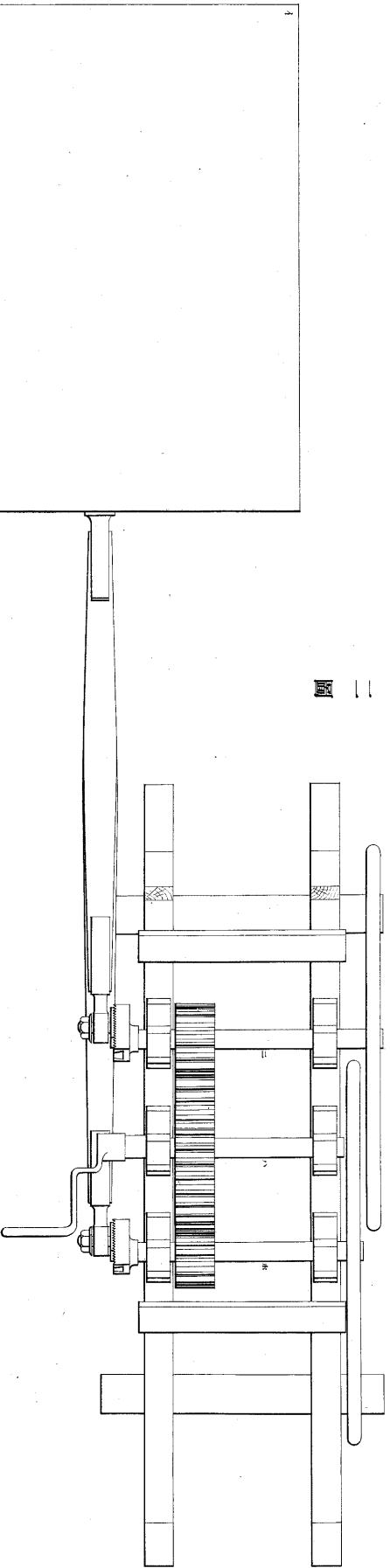
第二項 震災家屋ノ調査報告等ヲ蒐集スル事

被害家屋調査ノ目的ハ主トシテ耐震家屋設計ノ參考トスルニアリ故ニ濃尾大震災被害家屋ニ關シ建築學士等ノ調査書類及ヒ報告演說及建築學士ノ耐震構造ニ關スル意見書演說等ヲ蒐集セントス然レトモ目下調査中ニ屬セリ

人造地震臺



第一圖



第二圖



一之六寸

右及提出候也

震災豫防調査會委員 曾 禰 達 藏

全 中村達太郎

明治二十七年 全 工學博士 片山東熊

三月三十一日 全 辰野金吾

震災豫防調査會長 理學博士 菊池大麓殿

○參照第十(乙)

試驗小屋新設ノ件

試驗小屋トハ人爲ノ震動ヲ興シテ之ヲ構造物ノ雛形ニ觸レシメ其強弱ヲ試驗スルノ場所ニシテ帝國大學構内ニ新設シタリ梁間五間桁行七間即チ三十五坪ノ假小屋一棟ニシテ明治二十七年二月廿二日着手シ三月二十四日ヲ以テ竣工ス其圖面(第六號)及仕様書ハ別紙ノ如シ

右及提出候也

震災豫防調査會委員 曾 禰 達 藏

全 田邊朔郎

明治二十七年三月 全 片山東熊

全 工學博士 辰野金吾

全

震災豫防調査會長

理學博士 菊池大麓殿

試驗小屋新築仕様書

一 桁行 七間
一 梁間 五間

此建坪參拾五坪西洋小屋組ミ柱掘建テ切妻造リ

軒高サ地盤ヨリ桁下端迄拾貳尺ノ事

屋根五寸勾配柿板葺外部惣体堅羽目張目板打付トス腰

廻リ三尺高サハ横板張四方ニ硝子窓ヲ設ケ大小入口貳

ケ所取設之事

一 右試驗小屋ヲ建設スヘキ場所ハ指圖ニ從ヒ地均ラシ致シ水

盛ノ上遣リ形打廻シ壹尺五寸四方深サ三尺五寸ノ壺堀ヲ柱

根毎ニ致シ穴敷ヘハ大玉砂利打チ入レ中硝子能ク充分ニ

突き堅メ目通り壹尺ノ玉石ヲ馴染能ク据付ケ柱打チ建テ後

ハ周圍ヲ砂利打チ交セ千本突きニ致スヘキ事

一 小屋ノ外部ハ四方共水垂レヲ附ケ内部ニ貳寸程盛土ノ上敷

均ラシ致スヘシ

一 柱ハ杉長サ貳間半四寸押角ヲ三尺通り根燒致シ見ヘ掛リノ

分ハ總テ木造ニ致シ窓臺敷居取リ付ケ通シ貫ハ都合四通リ

石黒五十二